

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月11日

上場取引所 大

上場会社名 クルーズ株式会社

コード番号 2138 URL <http://crooz.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 小淵 宏二

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長

(氏名) 櫻井 英哉

TEL 03-5786-7080

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	1,929	△21.3	243	140.6	262	184.0	△121	—
21年3月期第2四半期	2,451	—	101	—	92	—	53	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
22年3月期第2四半期	△4,440.61	—
21年3月期第2四半期	1,592.96	1,419.26

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
22年3月期第2四半期	1,784	769	43.0	27,991.00
21年3月期	2,647	913	34.5	33,331.05

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 767百万円 21年3月期 913百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
21年3月期	—	—	—	900.00	900.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	900.00	900.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	3,600	△30.2	300	36.4	310	46.6	△80	—	△2,357.31

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

(参考) 平成21年4月1日に人材事業を担当しておりました、株式会社ペインキャリアジャパンの全ての株式を譲渡しております。よって、平成22年3月期の連結業績予想には、人材事業は含まれておりません。なお、平成21年3月期の人材事業の売上高は1,971百万円、モバイル事業は3,182百万円となっております。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
新規 1社 (社名) 除外 1社 (社名 株式会社ベインキャリージャパン)
(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	33,937株	21年3月期	33,932株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	6,528株	21年3月期	6,528株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	27,408株	21年3月期第2四半期	33,494株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件等については、5ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。なお、当社の事業計画は通期ベースで作成しており、第2四半期連結累計期間の業績予想は作成しておりません。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気の悪化に底打ちの兆しが見られるものの、依然として、企業収益の低下や雇用情勢の悪化、個人消費の低迷など厳しい状況が続いております。

モバイルビジネスを取り巻く環境につきましては、平成21年9月30日現在における携帯電話の累計契約台数が10,963万台、そのうち第3世代携帯電話端末の台数は10,434万台(前年同期比11.4%増)(注1)となっており、全体の95.2%を占めるに至っております。また、モバイルコンテンツ市場とモバイルコマース市場をあわせたモバイルコンテンツ関連市場は2008年度に1兆3,524億円(前年同期比17.0%増)(注2)となり依然としてマーケットが拡大していることに加え、プラットフォームの多様化によるコンテンツ配信経路の拡張や携帯電話を使用した送金が可能になるなど、携帯電話を利用した新しい事業モデルやグローバル市場への期待が高まっております。

このような環境の中、当社では特に重要方針としまして、資本効率の最大化、売上高の最大化、営業利益の最大化を目的としたコンテンツの育成・撤退ルール「4Cプログラム」を開始し、焦点絞込戦略と選択と集中戦略の実施を強化いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、資本効率が高く成長性の高い主力コンテンツ(以下、「C1」という)が堅調に売上高を伸ばしました。また、無料ブログ作成サイト「CROOZブログ」のPV数、会員数の伸びが継続しており、当社の有料コンテンツへのユーザーの回遊及び広告収入が堅調に伸びたことにより収益拡大が加速し、既存のモバイル事業につきましては、売上高は1,929,049千円(前年同四半期比34.7%増)となりました。なお、平成21年4月1日に人材事業を担当しておりました株式会社ベインキャリージャパン(以下、「VCJ」という)の全ての株式を譲渡したことにより、当第2四半期連結累計期間における売上高は、前年同四半期比21.3%減となりました。

利益面におきましては、「4Cプログラム」のルールに則り、利益率の高い「C1」に焦点を絞り込んだことにより利益率が大幅に向上しました。また、広告枠を仕入れて薄利で販売する売上高重視型ビジネスモデルの広告代理サービスを再編・縮小し、「CROOZブログ」等の高収益な自社媒体の広告販売及び自社課金コンテンツの収益拡大が順調に推移した事に連動して利益率が向上し、第2四半期連結累計期間における、営業利益は243,376千円(前年同四半期比140.6%増)、経常利益は262,924千円(前年同四半期比184.0%増)となりました。

一方、当社が期待する成長性・収益性に達しないコンテンツ「C2」については、追加投資を停止し、利益を確保しながら売上高を維持しました。また、成長性・収益性の低いコンテンツ「C3」については撤退するとともに、該当するソフトウェア資産の除却および減損処理を実施しました。さらに、開発生産性向上を目的にコンテンツ運営システムおよび業務処理システムを全面リニューアルしたことに伴い、従来使用していたシステムの除却も併せて実施し、特別損失457,724千円が生じたことにより、四半期純損失は121,710千円(前年同四半期の四半期純利益53,354千円)となりました。

(注1) 社団法人電気通信事業者協会の調査に拠っております。

(注2) モバイル・コンテンツ・フォーラムの調査に拠っております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は1,784,869千円(前連結会計年度比32.6%減)となりました。主な要因としましては、ソフトウェア等の除却および減損処理による無形固定資産の減少354,739千円、V C J株式の譲渡等による売掛金の減少261,990千円によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は1,015,460千円(前連結会計年度比41.5%減)となりました。

主な要因としましては、V C J株式の譲渡等による買掛金の減少490,685千円、短期借入金の返済による減少200,000千円によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は769,409千円(前連結会計年度比15.8%減)となりました。主な要因としましては、四半期純損失による利益剰余金の減少146,373千円によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、720,574千円(前年同四半期比249,124千円の増加)となりました。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、131,294千円となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純損失が194,800千円であったものの、固定資産除却損及び減損損失の増加額427,656千円、売上債権の減少額34,879千円等が生じたことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、△209,458千円となりました。主な収入要因は、敷金保証金の返還による収入59,248千円によるものであり、主な支出要因としましては、無形固定資産の取得による支出161,228千円、本社移転に伴う、敷金保証金による支出79,212千円によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、△222,284千円となりました。主な収入要因は、新株予約権の発行による収入2,204千円によるものであり、主な支出要因としましては、短期借入金の返済による支出200,000千円、配当金の支払いによる支出24,663千円によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期に引き続き、当第2四半期においても、無料ブログ作成サイト「CROOZブログ」の女性会員数の伸びが継続しており、当社の女性向け有料コンテンツへのユーザーの回遊及び広告収入が堅調に推移しております。また、上半期では、資本効率の最大化を方針に掲げ、選択と集中を行い、利益率の高いコンテンツへ集中投資を行いました。その結果、当社の収益性の向上が図られ、業績はこれまでのところ順調に推移しております。

さらに、当社が運営するコンテンツの育成と撤退を、成長性・収益性の観点から、「C1」～「C3」まで3段階にクラス分けした、「4Cプログラム」に則り、期待値を上回り、成長性・収益性が高いコンテンツ「C1」については、長期的な成長を推進するため、上半期を上回る投資を集中的に行う計画です。一方で当社が期待する成長性・収益性に達しないコンテンツ「C2」については、追加投資を停止しました。また、成長性・収益性の低いコンテンツ「C3」については撤退するとともに、当第2四半期において、該当するソフトウェア資産の除却及び減損処理を実施いたしました。また、開発・業務生産性を最大化するために、コンテンツ運営システム及び業務処理システムを全面リニューアルし、従来使用していたシステムの除却も併せて実施いたしました。

今後は「C1」のみに集中し、徹底したコスト管理と資本効率の最大化を推進することで、収益性が大幅に向上する見込みです。さらに、システム全面リニューアルに伴う生産性の向上により、長期にわたって高い収益性が維持できる体制となっております。

上記の通り、第2四半期累計期間までの業績推移と、今後の取り組みを勘案して、通期の業績予想につきましては、売上高3,600百万円、営業利益300百万円、経常利益310百万円、当期純利益△80百万円を見込んでおります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(主要な関係会社の異動)

連結除外：株式会社ベインキャリージャパン

前期末において当社の連結子会社であった株式会社ベインキャリージャパンの全ての株式を平成21年4月1日付で譲渡したことにより、連結の範囲から除外しております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期 連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	720,574	1,021,022
売掛金	641,724	903,715
商品	1,254	527
仕掛品	8,710	13,866
その他	80,262	31,509
貸倒引当金	△8,151	△7,525
流動資産合計	1,444,374	1,963,115
固定資産		
有形固定資産	24,825	45,144
無形固定資産		
ソフトウェア	173,411	528,090
その他	890	950
無形固定資産合計	174,301	529,041
投資その他の資産		
敷金及び保証金	98,588	103,942
その他	42,779	6,667
投資その他の資産合計	141,367	110,610
固定資産合計	340,495	684,795
資産合計	1,784,869	2,647,911
負債の部		
流動負債		
買掛金	194,861	685,546
短期借入金	400,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	57,600	28,800
未払金	180,213	176,168
未払法人税等	2,490	24,525
その他	37,894	48,266
流動負債合計	873,060	1,563,307
固定負債		
長期借入金	142,400	171,200
固定負債合計	142,400	171,200
負債合計	1,015,460	1,734,507
純資産の部		
株主資本		
資本金	320,022	319,935
資本剰余金	310,022	309,935
利益剰余金	426,779	573,153
自己株式	△289,619	△289,619
株主資本合計	767,205	913,404
新株予約権	2,204	—
純資産合計	769,409	913,404
負債純資産合計	1,784,869	2,647,911

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	2,451,652	1,929,049
売上原価	1,613,716	799,921
売上総利益	837,936	1,129,128
販売費及び一般管理費	736,780	885,751
営業利益	101,155	243,376
営業外収益		
受取利息	683	343
保険解約返戻金	—	24,748
その他	78	136
営業外収益合計	761	25,228
営業外費用		
支払利息	42	4,867
株式交付費	16	0
自己株式取得費用	350	—
貸倒引当金繰入額	8,272	—
その他	669	813
営業外費用合計	9,351	5,681
経常利益	92,566	262,924
特別損失		
固定資産除却損	55	319,919
減損損失	—	107,736
関係会社株式売却損	—	11,357
事務所移転費用	—	18,710
特別損失合計	55	457,724
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	92,510	△194,800
法人税、住民税及び事業税	40,011	1,082
法人税等調整額	△855	△74,172
法人税等合計	39,155	△73,090
四半期純利益又は四半期純損失(△)	53,354	△121,710

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	92,510	△194,800
減価償却費	67,352	98,001
減損損失	—	107,736
貸倒引当金の増減額(△は減少)	11,681	625
受取利息及び受取配当金	△683	△343
支払利息	42	4,867
関係会社株式売却損益(△は益)	—	11,357
株式交付費	16	0
自己株式取得費用	350	—
固定資産除却損	55	319,919
事務所移転費用	—	18,710
売上債権の増減額(△は増加)	△24,598	34,879
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,009	5,315
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,707	△270,312
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	2,339
未払消費税等の増減額(△は減少)	△1,933	14,479
その他の資産の増減額(△は増加)	319	5,574
その他の負債の増減額(△は減少)	△45,365	△7,314
小計	94,031	151,036
利息及び配当金の受取額	683	312
利息の支払額	△42	△4,666
法人税等の支払額	△68,644	△15,388
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,027	131,294
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△284	△150
無形固定資産の取得による支出	△183,457	△161,228
貸付けによる支出	△20,000	—
貸付金の回収による収入	5,704	—
敷金及び保証金の差入による支出	△167	△79,212
敷金及び保証金の回収による収入	—	59,248
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△28,116
投資活動によるキャッシュ・フロー	△198,204	△209,458
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△200,000
株式の発行による収入	4,533	174
自己株式の取得による支出	△73,414	—
配当金の支払額	△60,843	△24,663
新株予約権の発行による収入	—	2,204
財務活動によるキャッシュ・フロー	△129,724	△222,284
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△301,901	△300,448
現金及び現金同等物の期首残高	773,351	1,021,022
現金及び現金同等物の四半期末残高	471,450	720,574

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	モバイル事業 (千円)	人材事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,432,164	1,019,488	2,451,652	—	2,451,652
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	34,527	64,267	98,794	(98,794)	—
計	1,466,691	1,083,756	2,550,447	(98,794)	2,451,652
営業利益	219,221	60,876	280,097	(178,941)	101,155

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

当社及び連結子会社の事業は、平成21年4月1日付で人材事業を担当しておりました株式会社ベインキャリージャパンの全ての株式を譲渡しているため、モバイル事業ならびにこれらの付帯業務の単一事業であります。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。